

〈社会科〉 5年

「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・全体の正答率は、目標値を上回っており、学習内容は定着しているといえる。
- ・全体的な傾向は、学校生活の様々な場面で、身近な社会的事象に目を向けさせていく必要もある。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・複数の資料を組み合わせて、課題解決を図ることに課題がある。
- ・伝統や文化、先人の働きなどの正しい知識が、十分身につけていない。
- ・学習した内容は理解できているが、知識を結びつけて考える力をつけていく必要がある。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・複数の資料を読み取り、関連付けることで問題を解決することに課題がある。
- ・資料から読み取ったことを根拠として、自分の考えを表現することに課題がある。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・学習問題の解決に向けた主体的な追究をすることに課題がある。
- ・資料を関連付けたり、自己の考えを表現したりすることに抵抗感があり、問題に取り組めない児童がいる。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・資料の正しい読み取り方について、年間を通じて継続的に指導を行う。
- ・社会科の授業だけでなく、他の教科の指導と関連付けながら、資料の読み取り方を身につけ、情報を整理する力を高める。
- ・学習内容と関連付けて、地図帳の見方や資料の活用方法について定着を図る。
- ・学習内容と関連する地名について、地図帳を活用して調べさせる機会を増やす。
- ・伝統や文化、先人の働きや歴史の学習においてかぎとなる用語を、各自で授業のまとめを書くことで理解を深めさせる。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・問題解決的な学習を中心とした授業展開を行い、社会的事象に対する自分なりの考えをもたせる。
- ・自分たちの生活(身近な事象)や複数の資料と比較・関連させながら考えさせる場面をつくる。
- ・調べ学習で分かったことを事実と考えを関連付けて、新聞やパンフレットにまとめる表現活動を継続的に行う。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・視聴覚教材を活用して学習内容に関する具体的な理解を図り、課題に対する関心を高める。
- ・身近な社会的事象に関する資料を、ねらいを明確にして提示することで、児童が比較・関連を通し、自ら課題意識をもって取り組めるようにする。